菊水小学校　学校だより　第７号

R6．9．2

文責　井上雄治

『だれかの笑顔のために』

「元気よく挨拶や返事ができるこどもたちを育ててほしい」

　これは、植木町にあるリバテープ製薬株式会社の代表取締役　橋爪社長の言葉です。この夏休みに、橋爪社長の講演を聴く機会がありました。リバテープ製薬は日本で最初に薬液付き絆創膏をつくった会社です。

　夏休み明け集会で、子どもたちに簡単にリバテープ製薬の歴史について紹介し、夏休み明けも、「元気よく、相手の目を見て、あいさつや返事ができるように頑張りましょう。」と話をしました。

　リバテープ製薬株式会社の創業のきっかけとなったのは、西南戦争だったのだそうです。激戦地となった田原坂では、多くの負傷者が出ました。その負傷者を介護していた中に「星子家」がありました。星子亀次郎青年（創業者）が、薩摩軍の軍医から、傷ついた兵士にぜひ役立ててほしいと、薩摩軍秘伝の膏薬の調合方法を教えてもらったのがきっかけだそうです。これがリバテープのルーツなのだそうです。
　橋爪社長は、学校教育に期待すること（期待する力）について次の３つの力を示されました。

『表現力』『コミュニケーション力』『創造力』です。

さらに、**「元気よく、相手の目を見て挨拶や返事ができるこどもたちを育ててほしい」**と話されたのです。

　毎年、入社試験のために、高校生が会社を訪れるそうです。毎回、小さな声で「おはようございます。」と玄関から入ってくる高校生を目にするそうです。しかし、面接試験では、とても大きな声で自分の学校名や名前を名乗り、あいさつをしてくれるのだそうです。先ほど、あんなに小さな声でしかあいさつができなかった高校生と同じ人だろうかと疑いたくなるくらいの変わり様にびっくりされるそうです。
　高校では、何回も繰り返し面接の練習をされているのだろうが、どんな場でも「元気よく、相手の目を見て挨拶ができる人を育ててほしい」との思いを語られました。

　菊水小学区でも、授業の中だけでなく、どんな場面でも、だれに対しても、相手の目を見て元気で気持ちのよい挨拶ができるようになってほしいと願っています。

　もうひとつ感動したことがあります。創業から三代目の方が、日本で最初に薬液付き絆創膏の開発に成功されたのですが、特許を取らず製造方法をオープンにしていたのだそうです。**「世のため、人のため」**という創業者の亀次郎の精神を受けつぎ、絆創膏の普及に繋がるのであればと、その製法を隠すことなく他にも教えられたのだそうです。そこから、各地域でも絆創膏が作られるようになりました。様々な呼び方があるのはそのためだったのですね。何と呼ぶかで、出身地が分かってしまうほど各地に定着しているようです。みなさんは、普段何と呼んでいますか。

『サビオ』　（北海道・和歌山：広島）
『カットバン』　（東北地方・山梨・岡山・鳥取・島根・山口・愛媛・高知・佐賀・長崎・鹿児島）
『バンドエイド』（関東地方・大阪・京都・兵庫・滋賀・三重・愛知・岐阜・香川・徳島）
『リバテープ』　（福岡・熊本・大分・宮崎・沖縄・奈良）
『ばんそうこう』（新潟・長野・石川・福井・静岡）
『キズパン』　（富山）